**２０２３年７月30日(土)　高峰高原会場**

 岸本尚毅

〇 山に雲湧き百合化して蝶になる 井越芳子

 臈闌けてくる夏の雲晴れ三日 石田経治

 日陰蝶山小屋厳に塞ぎある 青木百舌鳥

 とんばうの風にまはるよ柳蘭 青木百舌鳥

 降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ

 高田　峰

〇 炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

 蒙古斑隠してしまふ天瓜粉 石田経治

 ガレ山に仁王立ちなる雲の峰 前田なな

 杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

 花の名をどうのこうのと花野ゆく 和田　桃

 三上朋子

 あめんぼう飛べば水底影も飛ぶ 浅間二晁

 柳蘭さまざまに揺れ同ぜざり 高田　峰

 ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

〇 ガレ山に仁王立ちなる雲の峰 前田なな

 さはさはと彩のゆらめく大花野 前田なな

 山本道子

 突つ立てる梅蕙草に雲疾き 青木百舌鳥

 見えてゐて遠き山嶺や夏薊 平松貴子

 露涼し山神祀る石祠 天明さえ

 降雪機並ぶ斜面や夏薊 岸本尚毅

〇 さはさはと彩のゆらめく大花野 前田なな

 前田なな

 ぱつきりと花の七つや小鬼百合 天明さえ

 炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

〇 杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

 咲きすすむ莟掲げて柳蘭 三上朋子

 ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

 平松貴子

 販婦の歌膝ついて瓜を売る 山下疾風

 この花野得て連山のにぎにぎし 和田　桃

〇 山に雲湧き百合化して蝶になる 井越芳子

 高原を走るそよぎの音涼し 宮成乃ノ葉

 ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

 苫野とまや

 この花野得て連山のにぎにぎし 和田　桃

 暇さふなリフトの支柱夏の山 白井美也子

〇 熊鈴のどこか鳴りをる黄菅かな 東　鵠鳴

 鈴のして登山者の顔現るる 大坪正美

 降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ

 天明さえ

 炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

 杉木立こぞりて脚の涼しけれ 東　鵠鳴

 見知りたる友のごと来る赤蜻蛉 大坪正美

 幣桧結へる鳥居や赤とんぼ 三上朋子

〇 さはさはと彩のゆらめく大花野 前田なな

 東　鵠鳴

〇 涼風やバス待つ時も語らひて 平松貴子

 始まりのなくて雲ある蜻蛉かな 岸本尚毅

 夏の山穂ある花のみ戦ぎをり 秋澤夏斗

 やつて来る人や蜻蛉の飛ぶ中を 岸本尚毅

 ひんらりと野へ躍り出づ夏の蝶 北杜　駿

 大坪正美

 連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

〇 花の名をどうのかうのと花野ゆく 和田　桃

 ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

 風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

 露涼し山神祀る石祠 天明さえ

 宮成乃ノ葉

 木洩れ日にしもつけ草のあはあはと 三上朋子

 見知りたる友のごと来る赤蜻蛉 大坪正美

 お花畑そつと緑を踏み分けて 岡本へちま

 連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

〇 小流をせき止め瓜の五つ六つ 浅間二晁

 山崎たか

 杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

 あさぎまだらものの音なき地上にて 井越芳子

 降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ

 高峰の地の貧しさに柳蘭 石田経治

〇 大花野二十四色では足りず 平松貴子

 白井美也子

 杉木立こぞりて脚の涼しけれ 大坪正美

 木洩れ日にしもつけ草のあはあはと 三上朋子

 祀られし山の神ゐるお花畑 安藤裕子

 鈴のして登山者の顔現るる 大坪正美

〇 花の名をどうのかうのと花野ゆく 和田　桃

 青木百舌鳥

 風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

 山道の風涼しくて人やさし 東　鵠鳴

 花野ゆくカメラに収め収めゆく 清水順子

 避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

〇 高原の眩しき日向吾亦紅 和田　桃

 安藤裕子

 ぱつきりと花の七つや小鬼百合 天明さえ

〇 ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

 秋茜つまんでみよと翅休め 山下疾風

 下野や俳人はみな動かざる 白井美也子

 むくつけきハイカーの鈴涼しけり 高田　峰

 清水順子

〇 この花野得て連山のにぎにぎし 和田　桃

 祀られし山の神ゐるお花畑 安藤裕子

 水桶に踊る胡瓜や与良館 高田　峰

 大夏野浅間の雲は自在なり 安藤裕子

 人形の髷のごとくに車百合 山本道子

 秋澤夏斗

 見えてゐて遠き山嶺や夏薊 平松貴子

 とんばうの風にまはるよ柳蘭 青木百舌鳥

 石楠花の白揺れ噴火口しづか 苫野とまや

 あかるさや日光黄菅いちめんに 北杜　駿

〇 山の神守りて白山風露かな 清水順子

 山下疾風

 切り裂きて腸剔（はらわたえぐ）り瓜を食む 浅間二晁

 避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

〇 駆け来るや花野に帽子浮き沈み 青木百舌鳥

 連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

 三度蝶戻り来たりし花野かな 山本道子

 岡本へちま

 避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

 夏雲に青き余白のありにけり 秋澤夏斗

 ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

 風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

〇 暇さふなリフトの支柱夏の山 白井美也子

 浅間二晁

 蝉の殻うつろを曝ししがみつき 天明さえ

〇 夏雲に青き余白のありにけり 秋澤夏斗

 ふしくれの手に音生まる胡瓜揉 宮成乃ノ葉

 風露草些事は下界に置いてきし 石田経治

 炎天下見よ山の青空の蒼 岡本へちま

 和田　桃

 虫刈の実のあをあをと夏の果 秋澤夏斗

 ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

 炎天やリフトの索の中弛み 大坪正美

 見知りたる友のごと来る赤蜻蛉 大坪正美

〇 咲きすすむ莟掲げて柳蘭 三上朋子

 北杜　駿

 大夏野浅間の雲は自在なり 安藤裕子

〇 お花畑そつと緑を踏み分けて 岡本へちま

 木洩れ日にしもつけ草のあはあはと 三上朋子

 頂の雲の晴れゆくお花畠 高田　峰

 高原の風に抱かれて柳蘭 秋澤夏斗

 石田経治

 涼風やバス待つ時も語らひて 平松貴子

 始まりのなくて雲ある蜻蛉かな 岸本尚毅

 連れて来し子が泣いてゐる風露草 岸本尚毅

 ささやいて白山風露と教へらる 浅間二晁

〇 避暑楽し草をくぐれる座頭虫 岸本尚毅

 井越芳子

 茎までも濃ゆき薊に虫しげく 三上朋子

 販婦（ひさぎめ）の歌膝ついて瓜を売る 山下疾風

 夕菅や夕づく山に咲（わら）ひ出す 宮成乃ノ葉

 人形の髷のごとくに車百合 山本道子

〇 降雪機並ぶ斜面や夏薊 天明さえ